

小児医療費助成制度について

甲南大学 前田正子

日本社会の基盤に深刻な影響を与える少子化が進展している。出生率の高い国は子育て分野に財源を投入している。

- 少子化や子どもの貧困が大きな課題となっている中で、子育てのコスト負担など、

「子育てをしやすい環境」

「安心して子どもを産める」

と人々が考えることのできる環境をいかに整備するか、といった視点で小児医療費助成制度の在り方を検討すべきである。

子育て中の親とこれから結婚や子育てを考えている若者世代に必要なもの

・子どもを生み育てることを、社会全体が応援しているという安心感

「子育てにはお金がかかる」という認識が広がり、学生段階ですでに「子どもを育てるのは無理」ととらえている者が少なくない。

(若い夫婦も奨学金の返済負担を抱えていたり、認可に入れず認可外保育園の高額な保育料負担があるなど、表面的な収入だけでは見えない経済的負担もある)

・小児医療助成制度には子育てを応援しているというメッセージ力と親のニーズがある

(もちろん、子育て支援には経済的支援だけでなく、さまざまな現物サービスが必要。)

医療費負担の無料化・低廉化が受診回数をふやす のではないかの懸念に対して

- 親は子どもの状況が不安なので病院にいこうとする。
- かかりつけ医制度や#8000番など電話による医療相談窓口、子どもの病気に関する講座など、親への適切なアドバイスや支援を通して不安感をなくすことが重要
- 価格による医療需要の抑制は、低所得層や、低所得でなくても医療ニーズの高い層に対してより大きなペナルティとなる。
 - 低所得者層の子どものほうが健康状態が悪いという研究報告もある
(阿部彩 2012 『医療と社会』 Vol.22 No.3)
 - 低所得でなくても、慢性疾患をもちつつも難病や障害の医療費助成の対象にはならない子ども（例えば、ぜんそくやアレルギー）への配慮も必要。

【資料1】 過去1年間に病気やけがをしたときに病院を受診しなかった経験と理由

「医療費を支払うことが難しいため、病院を受診しなかった経験」

•子どものいる世帯全体 2.1% •ひとり親世帯 5.1% •国の貧困線以下の世帯 7.2%

「横浜市における子どもの貧困の実態把握のための調査」より

子育て中の親に必要なもの（医療助成制度をめぐって）

1. 経済的不安の解消（心理的な負担感の軽減） **【資料2】**
2. 子どもの育ちや健康に関する知識（子育てへの自信）

（子どもを産んだからといってすぐに完璧な親になれるわけではない。
育てながら学ぶことを応援する施策が必要）

赤ちゃんの世話をしたことが無く、親になる人が74%【資料3】

3. 医療へのかかり方に関する知識

親が自分の子育てに自信を持ち、楽しみながら子育てするには、子どもの育ちや健康に十分な知識をもちつつ、「心配なときには助けてくれるお医者様がいる」という安心感・医師は親の子育ての伴走者「大丈夫だよ」「ちゃんと上手に育てているよ」という励ましの言葉が親を救う

赤ちゃんが生まれる＝初めて親になった人たちが常に誕生している
⇔何度も繰り返し伝えていくことが必要

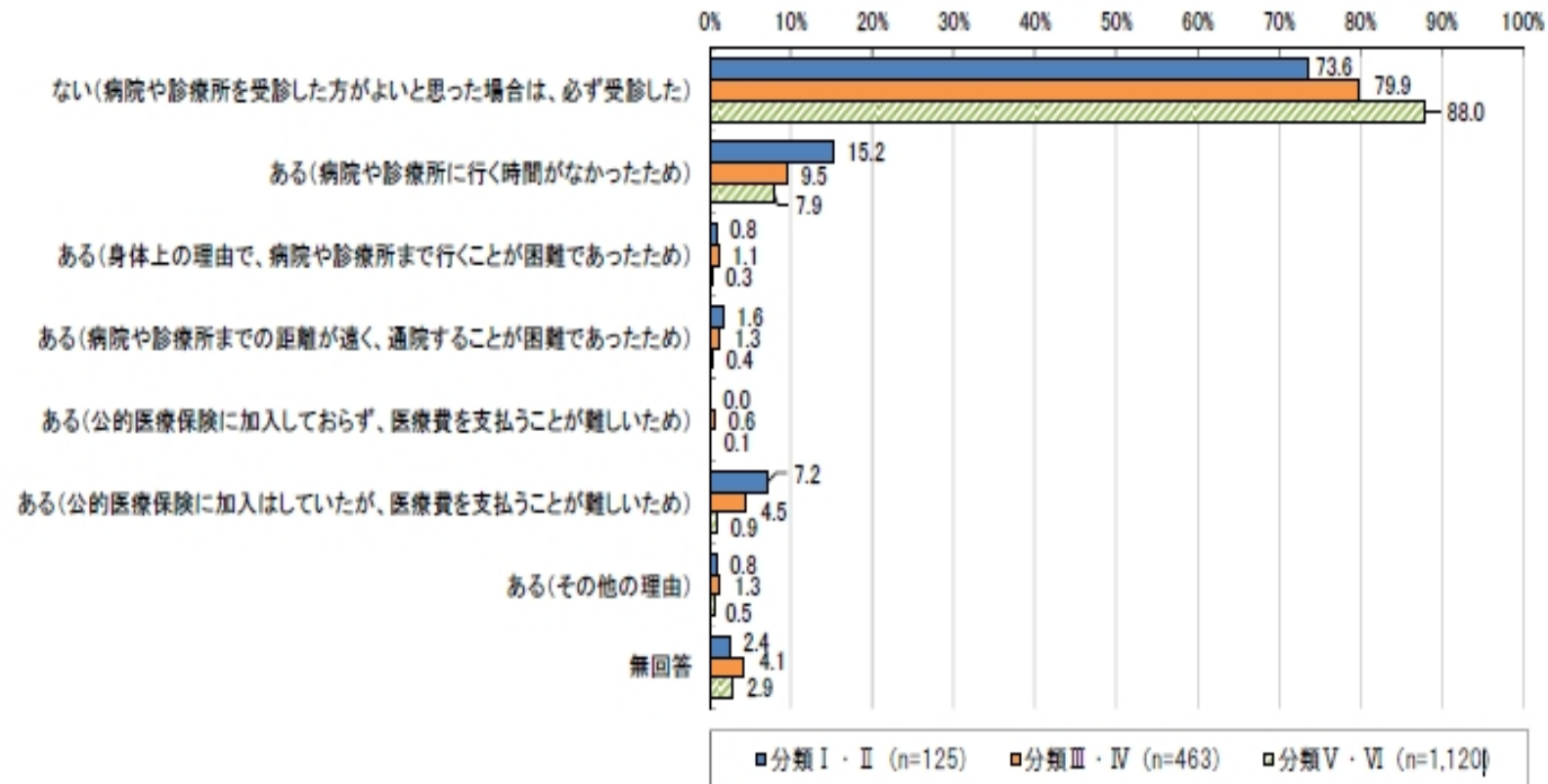
減額調整制度に合理性はあるか？

- 減額調整は、医療費助成の実施に顕著な格差がある場合、公的医療保険制度の自治体間の公平性を担保するという観点から導入された
- しかし、すべての自治体で小児医療費助成制度を実施している現在、公平性を担保するための十分に有効な手段となっていないのではないか
- 財政力の乏しい自治体やそこに住む世帯に対するペナルティになる可能性は無いのか？
- また、こどもの医療需要の価格弾力性は正確に分かっておらず、減額調整率の設定は適正なのか？

小児医療費助成制度の効果

- 親の経済格差に応じて子どもの健康格差がある
- 乳幼児期の健康は、将来の健康に影響する
- 罹患率の高い未就学児に関しては、健康効果を示唆する研究結果もある (Reo, Takaku 2016, *Social Science & Medicine*, Vol.151)
- 特に乳幼児期は罹患率も高く、親の経済的負担だけでなく、初めての子育てで親の心理的負担感や不安感も大きく、それを減ずる効果がある
- 子育てに不安がある親は7割以上 **【資料4】**
この不安感は、さまざまな複合的な要因で形成される

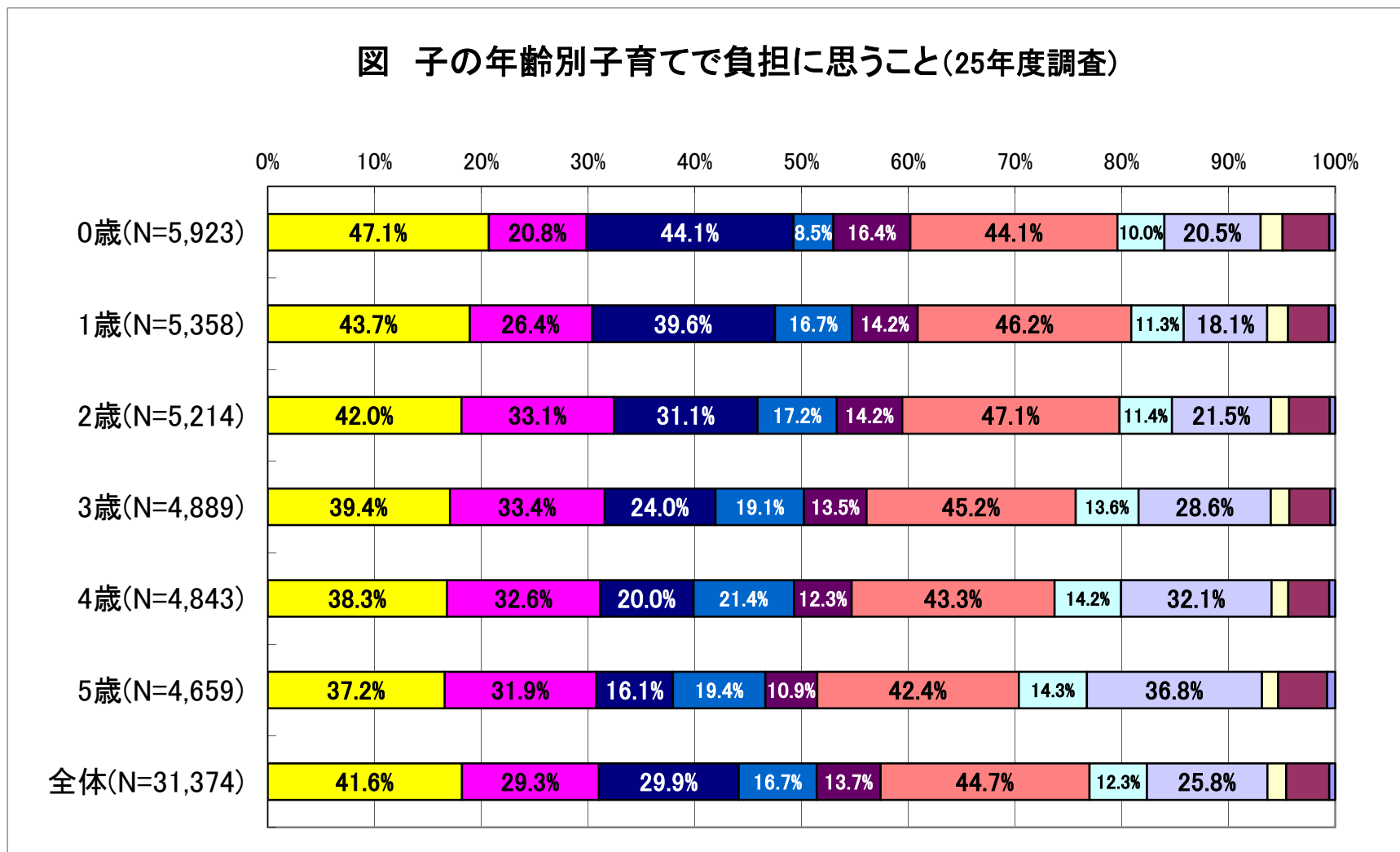
【資料 1】 可処分所得の分類別、「病院などを受診したほうがよいと思ったのに受診しなかった経緯」



「横浜市における子どもの貧困の実態把握のための調査」より抜粋
(2015年8月調査)

【資料2】子育てに関する負担感は複合的

図 子の年齢別子育てで負担に思うこと(25年度調査)

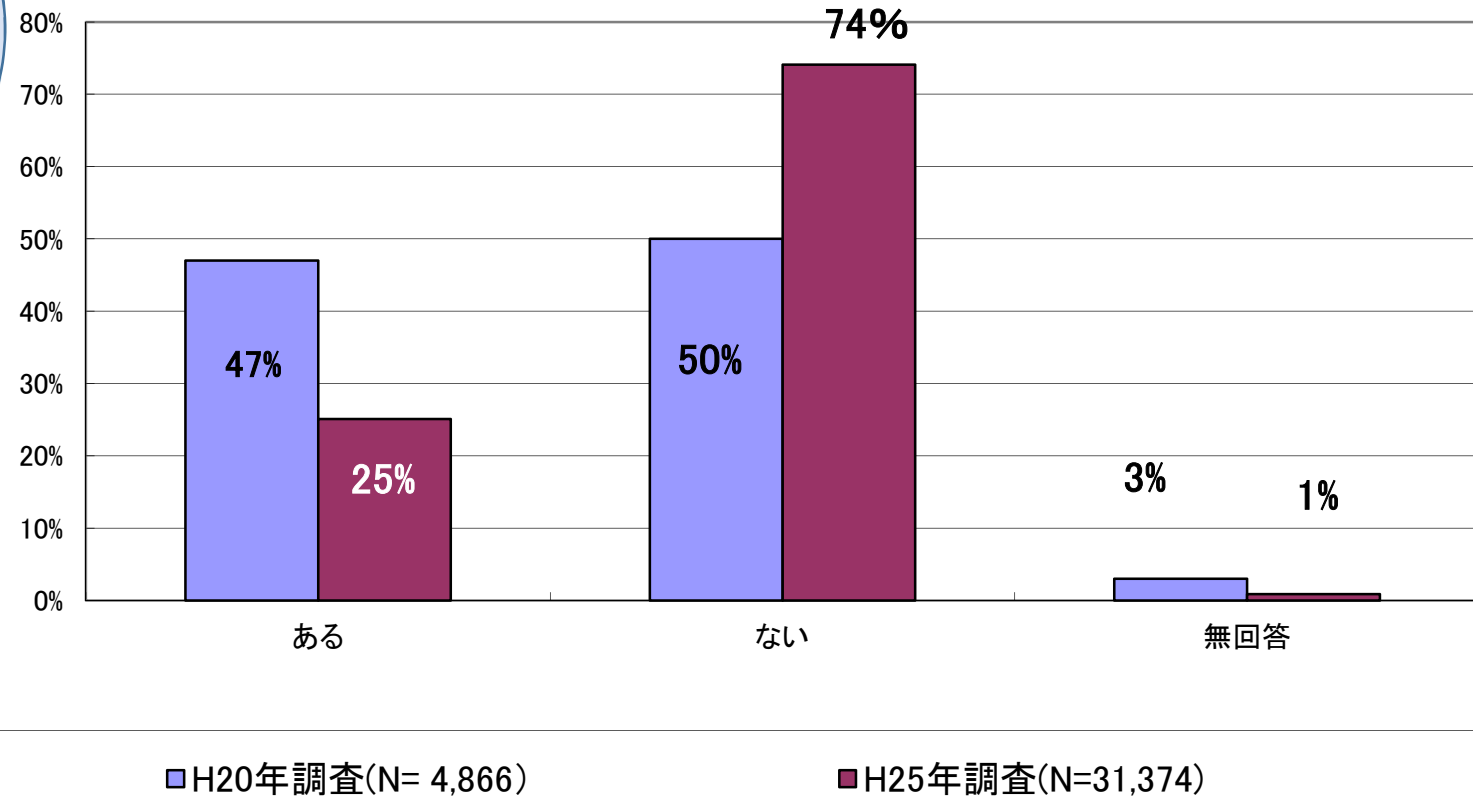


- 子育てによる身体の疲れが大きい
- 子育てによる精神の疲れが大きい
- 子どもから目が離せないで気が休まらない
- 子どもと過ごす時間がもてない
- 夫婦で楽しむ時間がない
- 自分の自由な時間がもてない
- 仕事が十分にできない
- 子育てで出費がかさむ
- その他
- 特にない
- 無回答

【資料3】子育ての現実を知らずに親になる人の増加 子育てのノウハウを学び、親として成長することを応援することが必要

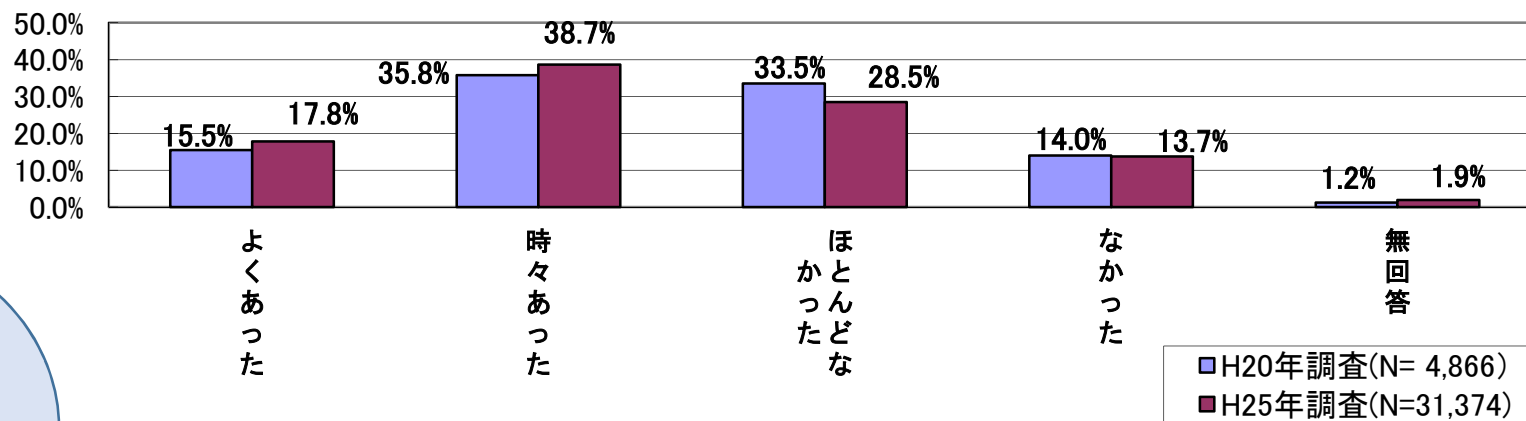
図 はじめての子どもが生まれる前に赤ちゃんの世話をした経験

平成20年と比べ、赤ちゃんの世話をした経験がない人は、50% →74%に増加



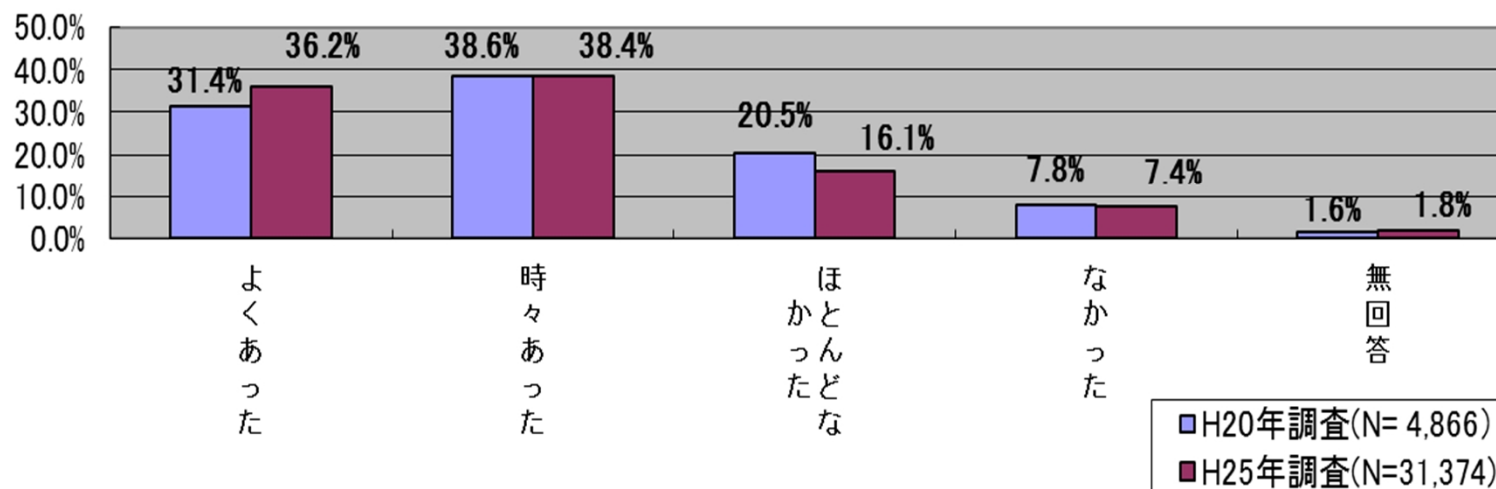
【資料4】 妊娠中から子育て不安を感じている妊婦 子どもを育てながら親になることへの支援が必要

図 子育てについて、不安を感じたり自信がもてなくなること(妊娠中)



平成20年に比べ
産後の育児不安
は増加傾向。
産後からの支援
が重要。

図 子育てについて、不安を感じたり自信がもてなくなること(出産後半年)



横浜市次世代育成に関するアンケート調査より